

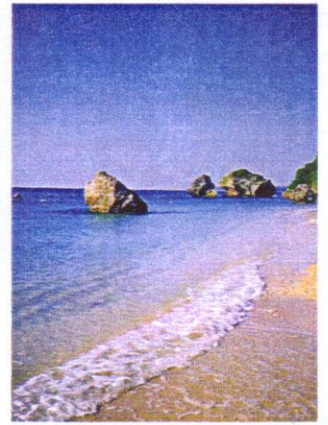
愛寿園だより

第11号

平成21年3月発行



春の海 ひねもす
のたりのたりかな
蔗村



社会福祉法人 愛寿会

特別養護老人ホーム 愛寿園

651-1512 神戸市北区長尾町上津 4663-5

☎078-986-1612 Fax. 078-986-1613

役割重視から理念の共有へ

施設長 萩原 隆次

特別養護老人ホームでは、介護職と看護職あるいは医師、ケースワーカー(相談員)、栄養士、厨房を含めた多職種協同によるチームプレーの重要性を指摘されて久しいですね。愛寿園では、創設者の後藤田会長の提唱による、和の心を最高の理念として多職種協同をすすめています。

以前、幼児の障害児教育に従事していた時、親たちの姿勢に対して求めていたことが標記の言葉です。

親には、祖父母・叔父・叔母等も入ります。年齢が高い兄・姉も入ります。障害を持つ子供の養育はとても大変です。

健常児の場合は、母親まかせが多いのが一般的です。しかし、母親1人ではつぶれてしまいます。各々が役割を分担することにより、母親の負担の軽減になるだけでなく、望ましい養育なり教育が可能となります。だから、私は親たちの教育こそ障害児教育の根本だと強く感じていましたので、その為の努力を惜しみませんでした。

或る時(施設長として5年目位の頃です)役割をそれぞれが果たすだけではダメだと気づきました。考えや思いが一緒でないとうまくゆかないんですね。時間的には、1日あるいは1年と言った期間での養育なり教育がされていたとしても、考えがバラバラでは即ち理念が各々で共有されていないと障害児はとまどい、不安定な状況に陥り混乱してしまいます。ケアする側は、家族同志であっても、職員であっても、この理念が共有されているか常に省みてほしいものです。

ケアに例えますと、分断された個々のケアが為されていても、そこに統一された考えがなければケアを受ける側はとまどうばかりになります。

愛寿園では、園の玄関ホールに、会長88才米寿記念の額 感謝“和”が掲げられています。創設者の奥義を感得し、全職員が一致協力、創意工夫を凝らして調和のとれたケアが実施できるよう努力し続けることを切に望んでいます。





1月 新年会

1月10日



まずはおめでたく「獅子舞」から。男性職員2人が手作りの獅子頭をかぶって登場。お囃子に合わせて元気よく舞い踊ります。利用者の皆さんの席を回って頭をガブリ。まるで子どものような歓声があちこちであがりました。無病息災、不老長寿。今年も元気で過ごせますように・・・。



次には、舞台にズラリ並んだ十人の利用者の出番。手には「あ」「け」「ま」「し」「て」「お」「め」「で」「と」「う」の丸い札が。それぞれの音で始まる歌を競おうという趣向です。ところがこれは難題、出そうでない。結局企画した職員が「しびれ」をきらして歌い始めるという始末でした。



三番手は、女性事務職員によるリコーダー演奏。こちらは、会場全員で合唱となりました。



そして、大取りは新舞踊。いつもながら艶やかな衣装と所作に拍手喝采がまき起こりました。



結構な
お福加減で・・・



お茶席

1月15日



愛寿園の初釜(?)です。お点前はO介護員。学生時代にクラブで覚えた腕前を時折披露して、利用者の皆さんに喜ばれています。

でも、利用者さんの一番の目的はお茶?それともあま〜いお饅頭?





2月 節分会

2月7日



4日遅れの節分行事を催しました。鬼に扮した職員めがけて、ご利用者が豆に見立てた赤玉を投げつける「豆まき」です。本気になってカいっぱい投げつけるご利用者、逃げる鬼。手元に豆がなくなれば拾い集めてご利用者へ運ぶ鬼、受け取ったその手で投げ返すご利用者。それを見て椅子から転げ落ちそうになりながら笑いころげる人、「わっはっはっは…」。そして「一年分笑うてしもうたわ…」。

その後は、「どら焼き」をみんなで手づくり賞味しました。



3月 ひなまつり会

3月7日



3月の誕生会を兼ねて「ひなまつり会」を開きました。

今月のゲストは「D○コーラス」のみなさん、半年ぶりにお越しいただきました。軽快なハーモニー、軽妙洒脱なトーク、そしてフレンドリーな歌の交流と、いつも楽しい雰囲気醸し出していただき、時間の過ぎるのを忘れてしまいます。



機能訓練 Rehabilitation



毎週火曜日の午後、理学療法士の辻隆一郎先生にお越しいただき、機能訓練を実施しています。ふつう、あまり歓迎されないのがリハビリですが、愛寿園の利用者のみなさんは、なぜか楽しみにされています。(写真上段)



絵画 Painting

隔週木曜日は「絵画の日」です。指導いただいているのは、後藤田裕志先生。描いた絵は、みなさん宝物。自分の部屋や廊下の壁に貼って「私が描いたの」と自慢している方もあります。(写真下段)



食事と嗜好、雑感

特別養護老人ホームの利用者にとって、ホームは生活の場であり、毎日の生活の中で食事は最大の楽しみのひとつとなっています。そして、食事には一人ひとり異なった好みがあり、それが満たされることは大きな喜びにもなると思います。しかし、施設では集団給食という枠組みがあり、一人ひとりの好みにきめ細かく合わせることはできません。したがって、できるだけ数多い共通の嗜好を求めて、できるだけ多くの人の満足感を得、喜ばれる食事を提供したいと考えています。当施設では定期的に嗜好調査を実施し、利用者の好みや好みの変化を捉えるよう努めています。

ところで、私は食事の習慣や嗜好の観察を兼ねて、食事介助をすることがあります。食事介助というと誰にでもできそうではありますが、利用者のペースに合わせるというのがなかなかむずかしいものです。

食べこぼして顔を拭かれるのが嫌いなNさん。食事中にも時々笑顔が見られ、楽しんでいるかのように見えます。そうすると、急ぐつもりはないのですが、ついついペースが上がってしまいます。「ゴホン、ゴホン」「あっ！ごめん、ごめん」。でも、心やさしいNさんは、ニコッとほほえみを見せて許していただきます。相手のペースに合わせることのむずかしさを痛感しました。

栄養士・介護支援専門員 谷口雅子

◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

1月は行く、2月は逃げる、3月は去る。月日の経つのは早いもの、などと言っていると、それは歳のせい、と返されそうですが、今年もはや春がめぐってきました。園の裏庭の梅の木も花をつけています。

不況風が吹き、兎角暗い話題が多い今日この頃ですが、春の陽射しを楽しむ余裕を持ちたいものです。(Y)

